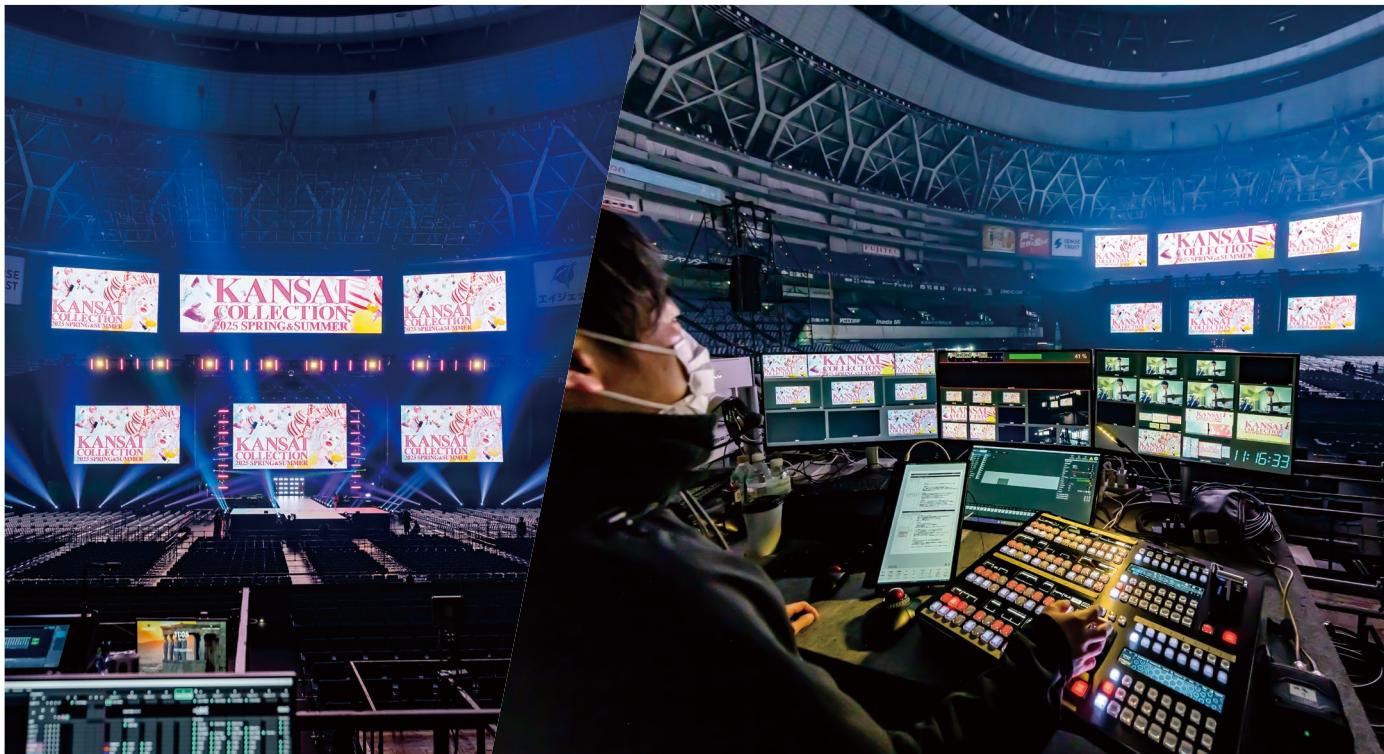


常に最先端のイベントシステム構築を。イベント演出の高品質と効率化の両立を進化し続けるKAIROSで実現。



ヒビノ株式会社 様 KANSAI COLLECTION

導入時期：2024年8月

イベント実施時期：2025年3月

導入地域：関東・関西

課題

近年のLEDビジョンの大型化や、扱う画面数の増加、コンテンツの複雑化に対応し、かつ将来のIP化も見据えたシステムを構築したい

解決策

出入力数が多くIPを含めた規格/解像度に対応したKAIROSを採用し、シームレスな演出、効率化と将来を見据えたシステム設計が可能に

“画面数が多いイベントであってもシームレスに一括切り替えができます。”

ヒビノ株式会社 ヒビノビジュアル Div.
プランチ統括 Visual 大阪プランチ
係長 林 憲治 様

※所属は納入時のものです。

背景

進む画面の大型化、複数化、コンテンツの複雑化

イベントやスポーツ、コンサートなど、様々なライブ演出を手掛けているヒビノ株式会社様。イベントでのシステム構築を統括するヒビノビジュアル Div. プランチ統括 Visual 大阪プランチ 係長 林憲治様は次のように語ります。「近年、イベントでLEDビジョンを使うことは当たり前になっています。また、年々画面のサイズは大きくなり、数は増えていき、コンテンツの内容も複雑化する傾向にあります。その結果、トータルの表示面積が増えることになります。この変化に対して映像の品質を落とすことなく、できるかぎり操作を一元化できるシステムを検討していました」

導入した理由

映像の切り替えの円滑化と将来を見据えたIPシステム

年々進化するイベントの演出要望に対応するための手段として、KAIROSが採用されました。「見せ方をはじめ、イベントの度に新しいチャレンジをしたいと考えています。先進機材の導入もその手段のひとつです。KAIROSは1台で様々な作業に対応。遊び心にあふれています。例えば画面数が多く、それらをまとめたマスターデータが巨大であっても、切り出した複数の画面を1回のスイッチングで替えられるため、ライブ中に細部まで美しい映像出力にこだわることができます。また将来を見据えたIPによるシステム構築もできることも採用理由のひとつでした」と林様は語ります。

音と映像のプレゼンター

1964年に設立されたヒビノ株式会社様は、創造と革新を経営理念に掲げ、「音と映像のプレゼンター」というコンセプトのもと、プロ用AV&ITを基軸としたトータル・ソリューション企業として、時代の先頭を走り続けています。

- 本社所在地：東京都港区港南3-5-14
- 大阪事業所所在地：大阪府吹田市豊津町18-8
- URL：<https://www.hibino.co.jp/>



▲ 大阪事業所の外観

IT/IP プラットフォーム “KAIROS”



▲大型LEDビジョン9面に映し出された映像



▲9面のLEDビジョン全てを一括でKAIROSから制御



▲LEDビジョンを活用したランウェイステージ



▲十字型のLEDステージの演出もKAIROSで制御



▲場所が限られる仮設の現場でもコンパクトタイプのパネルで省スペース運用



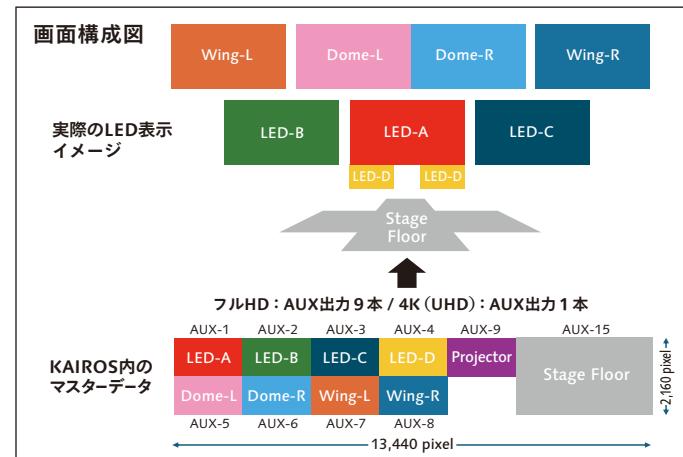
▲床面に表示する映像のシーン設定を行っているKairos Creator



▲メインフレーム Kairos Core 2000を2台使用



▲NDI® a チャンネルを使用したテロップ出しにAV-HSW10が活躍



お客様の声

大規模化・高解像度化が進むイベントで進化を続けるKAIROSを活用していきたい

KAIROSは出力数が多く、高解像度映像にも対応できるため、大規模なイベントでの活用が見込めます。これが採用に至った理由の一つです。GPU/ソフトウェアベースであるKAIROSのコンセプトは、まだ他にはない特長だと思います。売り切り商品が多い中で、ソフトウェアのアップデートによって、これからもできることが増え続けることも大きな魅力です。また今回のイベントでは一部でIPを使いました。IPにするとと思っている以上に楽になるのかもしれないという感想です。1本のケーブルで接続できるため、画が出なかった際にはそのケーブルを確認するだけで済み、大きなリスクヘッジとなります。これもIP化の大きな利点なのではないでしょうか。



ヒビノ株式会社 ヒビノビジュアルDiv.
プランチ統括 Visual 大阪プランチ
係長 林 憲治 様 (写真左)

ヒビノ株式会社 ヒビノビジュアルDiv.
プランチ統括 Visual 大阪プランチ
吉井 秀樹 様 (写真中央)

株式会社BRIDGE
代表取締役 藤林 典之 様 (写真右)

※所属は納入時のものです。

導入後の効果

複数のLEDビジョンの一括制御と調整作業の効率化をKAIROS1台で

イベントなどのライブ会場で複数の画面を扱う際の演出では、全ての画面が時差なく同期した制御が求められます「KANSAI COLLECTION2025SS」(京セラドーム大阪/2025年3月2日開催)でメインスイッチャーを担当した株式会社BRIDGE 代表取締役藤林典之様は、「KAIROSでは、複数の画面を扱う際、複数の映像をひとつのシーンとしてまとめて使うことができます。今回は、13,440pixel × 2,160pixel の巨大なシーンの中に複数の画面を配置し、1回の操作で同時に画面が切り替わるようにしました。また、機能的にKAIROS 1台で多くの機材をまかなえるほどのスペックがあることが今回KAIROSを使ってみて分かりました。例えばKAIROSに搭載されているカラーコレクション機能。既設設備と持ち込んだLEDビジョンのように複数社の機材が混在している場合、それぞれの色味が違うケースがありますが、KAIROSのカラーコレクション機能で同じ色味に合わせられるので、調整作業の負担を減らせます。しかも、事前検証で調整した“設定”を入れられるので、現場で一から作業を行う必要がなく、非常に効率的です」と話します。

納入機器

- ・メインフレーム Kairos Core 2000 AT-KC2000TS1 x2台
- ・コントロールパネル Kairos Control AT-KC10C2G x2台
- ・GUIソフトウェア Kairos Creator AT-SFC10G x2台
- ・ライブスイッチャー AV-UHS500 x1台
- ・コンパクトライブスイッチャー AV-HSW10 x1台

